

# たまいたま

## 川柳



水芭蕉

2019年  
4月号 (No.713)

日川協加盟

### 巻頭言

運勢暦といふこと

願法みつる

改元という「時」にあたってふと運勢暦なるものが気に掛かった。日本古来の歴史では、改元が天下国家の推移や天変地異と関連していたからなのだ。新憲法以後の御代ながら、新元号と運勢の関係が少しばかり気になる。暦は古来、天地運行のタイムテーブルであり、それを生活リズムの知恵とした。そこに人間や組織の運命・運勢を重ねるアイデアは、洋の東西を問わず存在していた。東洋の運勢観は、誠に奥深く神秘的である。諸葛孔明や陰陽師が、天を仰いで運勢を占う歴史的事実や小説などに、納得してしまいがちになるから不思議である。それにしてもである。十干・十二支・九星・六輝・十二直・二十八宿などと、よくもまあ様々な諸元を創造して、組み合わせ掛け合わせることを考えたものだ。それに運勢を理屈付けるのだから、大層な知恵の民族である。

日本では、暦に神道や仏教を付帯させる祭祀や盆・彼岸などの行事が身近である。季節の巡りや大安・仏滅など、繰返し現象や名称に運勢を仮託するようだ。言霊民族の暦観であり運勢観なのかも知れない。国民等しく、新元号に祈りを込めていることだろう。

日日是好

願法みつる

必勝へ敵も味方も御神酒あげ  
方角が悪い敵から攻められる

相性のよい運勢も今日は敵

三句吐き当て馬駄作天に抜け

何となく唯なんとなく星を観る